



人の眼軸長が伸びるのを防ぐ、近視の治療法は主に二つある。一つはアトロピンという点眼剤だ。京都府立医科大学の木下茂教授が説明する。

「近くを見る時は、水晶体の厚みを変化させる毛様体筋が収縮し、自律神経の副交感神経が優位な状態です。近くで見る作業が長時間になれば、目についてはいつも副交感神経優位という状態が続きますね。」

アトロピンは、この副交感神経優位をブロックするもの。収縮する毛様体筋をゆるめ、眼軸長が伸びることを抑制する作用があるとシンガポールの研究で報告されています」

このためシンガポールでは、アトロピン処方がある

種、標準治療になっていく。国内では、アトロピン点眼の効果を確認するため、大病院を中心に七施設のみ臨床研究を行っているところだ。

「われわれは二〇一四年十二月より近視の小中学生を対象にアトロピン点眼剤の近視進行抑制効果に関する研究を行っています。」

通常用いられる1%の濃度では瞳孔が開いてまぶし

自分の眼軸長を計測しよう

いなどといった副作用が強く現れることと、点眼をやめた時のリバウンド（近視が進む）があることがシンガポールの報告でわかっているので、低濃度（0・01%）のアトロピンで研究しています。来年、低濃度アトロピン点眼が有効であるというデータが示されれば、学童期の点眼に意味があることになるでしょう」（同前）